

令和6年度 国史跡伊勢国府跡調査指導会議 会議録

- 1 日時 令和7年2月21日（金） 午後2時から4時まで
- 2 会場 鈴鹿市考古博物館 講堂 / 広瀬町 伊勢国府跡第44次発掘調査現場
- 3 出席者（※肩書は令和7年2月21日時点のもの）
 - 石田 由紀子（独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館 学芸部 考古室長兼企画室）
 - 小澤 毅（三重大学 名誉教授）
 - 金田 章裕（京都大学 名誉教授）
 - 渡辺 寛（皇學館大学 名誉教授） 欠席
 - オブザーバー： 三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課
新名 強（班長）・土橋 明梨紗（主任）
三重県埋蔵文化財センター 活用支援課
石井 智大（課長）
亀山市 市民文化部 文化課 まちなみ文化財グループ 欠席
 - 事務局： 鈴鹿市 文化財スポーツ部 文化財課
大窪課長・伊藤 GL・田部・岡田・勝田・岡・伊藤・渡辺

4 会議録（敬称略）

14:00 開会（司会：発掘調査 GL）
挨拶（文化財課長） ※本年度は現地視察現場からの開始とした

14:05 現地視察・検討

事務局：攪乱が著しいが、遺構は残っていた。SD396・397 が昨年度の第43次の溝の南側の延長と想定される。SD397 からは直交して東へのびる SD399 や SD402 が確認された。長塚東南の内部をさらに分割する区画溝である可能性があり、SD399 が長塚東南区のほぼ中央にあたる。

出土遺物は SD396 以西、特に SD396 で多く、東との対比が著しい。攪乱内でも同様の傾向であった。

小澤：SD396・397 は第43次調査区からの延長と考えて問題ない。第43次調査区の長塚東南を区画する北辺溝（SD390・391・393）との接続のあり方から、この側溝間には土塁状の施設が想定できる。

溝端部の立ち上がり方や溝同士の交点の関係など、遺構を掘らないと分からない情報が多々あるので、全体的に遺構埋土を掘り下げてきちんと確認すること。

遺物が SD396 をはじめ調査区の西側に片寄るのは、そちら側に建物があつた等の意味があるはず。SD396 の遺物は溝の底面でなく、埋土の途中で確認できる。一定期間経った後に埋没した遺物であることが分かるように、底面から浮いた状態の写真や図をとること。

石田：SD396・397 は第43次調査区からの延長と考えるべき。SX403 の埋土を一段下げるなどして、SD397 と SD402 の関係を明らかにしたい。

15:05 博物館へ移動

15:30 博物館到着・出土遺物見学

15:35 博物館講堂にて再開

事務局：再開にあたり、改めて鈴鹿市情報公開条例第 37 条により、公開が原則であること、議事録も要約記録として後日公開すること、傍聴人 0 人であることを確認。

15:40 令和 7 年度以降の発掘調査計画の検討

事務局：令和 7 年度調査区として、SD399 の追加調査を目的して第 44 次調査区の北側隣地を提示。あわせて、令和 9 年度以降からは長塚東南区の西北の調査を提案。

小澤：令和 7 年度は事務局案に異議なし。長塚東南区の北東部分の情報が少ないので有意義。令和 8 年度に SD399 の東延長を確認できないか。樹木が茂っているので、トレンチ調査で可。あわせて、長塚東南区の東辺を（外溝が道路下ならば内溝だけでも）面的に確認するとよい。令和 9 年度以降の調査は、長塚東南区の西側が南と一体であるのかどうか検討するためにも必要であろう。

金田：SD396・397 は中心軸より東へずれているので、その理由を明らかにするための調査区が必要。北隣地でその理由を示す情報が得られることを期待したい。

石田：SD399・SD402 間が本当に土塁と想定できるのかを確認するため、その東側の延長を確認する必要がある。令和 9 年度以降、長塚東南区の北西を調査することはよい。

新名：区画内の性格を明らかにしていく一方で、追加指定の全体スケジュールと併せて調査計画を考えて欲しい。

16:00 閉会挨拶（発掘調査 GL）